



第69回全国連合小学校長会研究協議会佐賀大会報告

あわら市伊井小学校
校長 野村 等

1 期日・会場 平成29年10月12日～10月13日
佐賀市文化会館 他13分科会場

2 大会主題及び副主題

主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進
副主題 志を胸に 高さに和して 未来を創る
子どもを育てる 学校経営の推進

3 第1日目の概要

- (1)開会式 大会長・実行委員長挨拶
祝辞(文部科学大臣 佐賀県知事 他)
- (2)文部科学省講話
別冊資料をもとに、文部科学省の教育施策の概要について説明。(外国語教育改革について、教員の働き方改革について、その他について)
- (3)全体会 本部報告 大会主題・副主題・研究協議会の趣旨説明 大会宣言に関する提案
- (4)分科会 全13分科会での研究協議
(第3分科会(評価・改善)の概要)
研究課題…学校教育の充実を図るための評価・改善の推進

視点① 学校経営の改善に向けた学校評価の充実
発表「教育目標の具現化を基盤とした評価システムの工夫と組織改善の推進」豊橋市立野依小学校 市川徹校長
学校評価活動を通して、学校教育目標実現のための学校経営方針・学年経営方針・重点的な取組等の関連が明確にすることをねらい、学校評価改善に取り組んでいる。年度当初に3大プロジェクトを設定し、重点努力目標を子ども・保護者に発信している。関連した評価項目アンケートにより、成果と課題がより見えることになり、運営機構の工夫や日常的教育活動の工夫へとつなげている。

また、グループリーダーの役割も大きい。目指す姿を明確に伝えるとともに、相談、助言、対話を密にし、活性化の核となるミドルリーダーの育成も校長の大きな責務と言える。

視点② 教職員の資質向上に向けた人事評価の工夫
発表「教職員の資質向上を図り、人材を生かす人事評価の工夫」佐賀市立久保泉小学校 園田道夫校長
人事評価は、教職員の資質向上、人材育成につながる、学校教育の充実に資するものであるが、課題も多い。特に、「評価の精度と納得感」に疑問を持つと、本人の意欲減退や評価者としての校長への信頼感の下落につながり、教育活動の停滞をもたらすことになる。職員の観察記録・指導記録だけに頼らず、日常的なコミュニケーションを密にし、確かな関係性を構築する必要がある。また、学級スタート時の実態の厳しさ、校務分掌の負担度等の環境要因については、管理職として支援するとともに、取り組みの過程を評価していく

ことを丁寧に説明している。

「人事評価」の方法や位置づけ等、県による違いがある。先行実施県での課題に対する取り組みや評価者としての悩み等、情報を共有できた。

4 第2日目の概要

- (1)全体会 研究協議のまとめ 大会宣言
- (2)シンポジウム

未来を創る子どもたちに

～あたたかさ つよさ しなやかさ～

中島潔 氏(画家) 内山俊哉 氏(NHKアナウンサー)

酒井田祐右衛門 氏(陶芸家)

ユダ イネカー 針谷玲子 氏

(全連小調査研究部長)

内山氏…佐賀での子ども時代の遠足や登山、自然の中でのバーベキュー等、懐かしい思い出には、いつも友や家族が共にあり、自然と人のあたたかさにつつまれて成長した。仕事でのコミュニケーション力、チャレンジ精神等、今の自分につながっていると感じると語る。

酒井田氏…有田の町の風景は、さまざまな形で焼きものにつつまれていた。外から帰ってきてこの仕事に就いた時も、構えることなく自然体で入れる温かさがあった。作品にも、いつも目にしている地域の風景や、美しい草花の色、形を感じたままに表現することが大切だと思っている。伝統をつなぐことは、ふるさとの空気や流れの中に、今の感性を生かすことを大切にしていると感じた。

中島氏…「絵が好きだ。絵をやりたい。」自分の目標がはっきりしたとき、いきなり絵を持っての画廊売り込みや退職し外国へ行くことを決める等、実行する強さとなり、自己実現につながったことを語られた。目的を強くもって動き出すと、理解し応援してくれる人が周りにあられ、無謀、非常識と思われる行動も次へのステップとなった。

「志」を高く持つことが、自己実現を目指すエネルギーとなり、他を受け入れ自己の力とするしなやかさにもつながることを再確認することができた。

- (3)閉会式 大会長・大会実行委員長 挨拶
次期開催地(北海道)代表 挨拶

《所感》

分科会での「学校評価」「人事評価」は、子どもたちの育ちのために、学校が持つ内外の教育資源を有機的につなげ活性化させるためのツールであることを意識した。システムとして十分に機能させていくために、校長として研修を続けることの大切さを再確認した。

